

成果報告書

地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	西会津アーティスト・イン・スクール実行委員会		
所在地	福島県耶麻郡西会津町野沢下小屋 上乙3308番地商工観光課内	設立年	2020年
運営主体	西会津アーティスト・イン・スクール実行委員会		
事業目標	福島県西会津町内の学校(西会津町立西会津中学校)の空き教室や多目的広場、図書館などを利用して、アーティストやクリエイターが教育現場にを一時的な拠点として、滞在制作や生徒との交流の中でアート活動を行う。町内外で活動している様々な芸術分野のアーティストやクリエイターとの交流を通して、多様な価値観、生き方を学ぶ機会を創出し、ものの見方にゆらぎを感じてもらい、これからの未来を担う生徒たちの創造性や可能性を引き出すことを目的とする。また現状の教育現場に新しい風を送り込み、教員や特に地方社会が抱える閉鎖的な地域構造や課題にアプローチする。		
きっかけ	学生時のアート体験がその後の人生に与える影響力は、具体的な数値では示されていない。しかし、これを企画している実行委員会のメンバーは、演劇や現代アートといった芸術表現を軸とした表現活動や企画に取り組んでおり、教育的な観点から芸術表現が育む自主性や多様性の理解など芸術教育への可能性を考えている。西会津町は西会津国際芸術村をはじめとし、近年アートによるまちづくりを推進している。クリエイター人材の移住や関係人口の増加が進む中、町の未来を担う子供たちとクリエイター人材のマッチングにより、多様な価値観、生き方を学ぶ機会を創出するとともに、町の文化、歴史にお互いが触れ理解し、町に住うことのポテンシャルを上げる一助になることを願い、本団体を設立した。		
団体・組織等の連携			
活動場所	西会津中学校、町内空き家(ガレージ)		
活動概要	西会津町では近年、町の文化施設である西会津国際芸術村をはじめとし、芸術によるまちづくりが推進されている。クリエイターの移住や関係人口の増加により、クリエイティブ人材と町の未来を担う子供たちのマッチングを行い、多様な価値観を育む取り組みとして、教育と芸術を合わせた、「西会津アーティスト・イン・スクール」の活動を2020年から始動した。西会津町に招聘したアーティストを講師として、西会津町内の文化や暮らしについて調査滞在しながら校内にて制作や展示を行う活動である。本年度は1名のアーティストを招致し西会津町の文化調査をもとに制作・展示企画を行った。「交流」と「成長」をテーマに、地域の伝統工芸品であった「会津だるま」をモチーフとした巨大な張り子のモニュメントを制作し、校内で展示を行う。生徒とともに完成を目指し、町のくらしや文化についてとにも理解を深める機会を創出する。		

○本事業による成果

- ・コロナの影響により、生徒との交流の時間、制作時間の縮小のため、文化祭での発表は延期となった。さらに、展示するものの規模が想定よりはるかに制作期間がかかるものとなり、本年度内に目指していた最終的な大きなモニュメントの完成も延期することになり来年の1学期中を目指して設置を計画している。しかし、本年度中に中学校内でのモニュメント展示を目指した上で制作し続けていた、一連の作品群の展示や生徒との交流も定期的には行うことができた。
- ・設置計画は延期を重ねたが、中学校や教育委員会との打ち合わせを重ね、連携体制を整えることができた。西会津中学校の特色でもある「アントレプレナシブ教育」の授業にて招致したアーティスト、本団体コーディネーターが生徒の活動の活動に関わるなど、展開があった。
- ・本活動に積極的に興味を示す生徒、芸術活動に関心の高い生徒との交流が主になり、来年度はより多くの生徒との交流する工夫を検討する。
- ・アート作品を鑑賞するのは、実際に展覧会などを行っている会場に足を運ばなくてはならない。そのために先生方の引率が必要である。しかし、学校内に作品が展示されているというだけで、生徒たちが自由に芸術表現に触れ、鑑賞する機会を得られる。この点は、実践されてきてはいないが、小さな町における重要な要素ではないだろうか。

○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・活動の初期段階では、生徒との関わりの際、先生方に誘導いただくなど、外部団体・人材への抵抗感を和らげる必要があった。また、「こうした方がいい」と言いた押し付ける言い回しではなく、なるべく生徒等が何に興味があり、どのようなことがしたいか、耳を傾けるようコミュニケーション面を工夫した。

○運営上の工夫

- ・中学校や教育委員会との定期的なメールでのやりとりを続けて、情報共有を漏れなく行っている。
- ・アーティストが訪問する際、また作品をを設置した際に、先生方に学活時間等に広報してもらうようにしている。
- ・定期的な通信を作成し、アーティストの活動を伝えている。
- ・本年度からはICT教育が推進されている学校という特色もあり、各生徒が所持しているタブレット端末で気軽に活動の様子やテーマについての理解を深める機会を設けるため、動画制作と配信を行った。

○継続的な運営に関する課題・展望

- ・活動経費が助成金頼りになってしまっているため、町から安定した予算を受けることが難しい。
- ・本団体は少人数での運営になるため、招致している講師のサポートや関係各所へのやり取り、事務面などの負担が大きい。人員確保や体制の見直しが必要である。
- ・アーティストの参入に関しては、西会津町内で西会津国際芸術村が多く行なっているが、教育の分野での活動展開は町の将来を担う子供たちにとって影響は大きいものと思われる。今後の展開として、部活動のでの活動への参入にかかわらず、アントレプレナシブの授業や美術の授業への参加を検討している。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

町内に移住している、また西会津町に関わっている町内外のクリエイターやアーティストなどその人材が部活動や課外授業という形を通して、関わりを持つことを目指します。部活動の顧問や生徒とも意見交換を行い、この外部人材に当てられる予算などの確保を行なっていきたいと考える。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	全学年 20名
	学校名	西会津中学校
	募集方法	先生方による呼びかけ、動画配信や通信の配布。
指導者	人数等	当団体2名、外部講師1名、企画補助3名
	募集方法	一昨年から継続的に関わってきた町外のアーティストを講師として再び招いた。
参加者の移動手段		
活動費用	指導者謝金等	謝金 1,600円/時間、 交通費 町外からの招致のため、東京一会津間の交通費
	その他	消耗品費(制作材料費)
活動財源	会費	
	その他	助成金、委託金、自己資金
スケジュール	基本活動	隔週金曜日に学校へ訪問
	年間	～7月、見学 調査 8月～3月 活動(制作活動)の実施、交流、動画配信や通信の配布
保険加入等		

【活動の様子（写真添付）】



▲校内活動の様子



▲校内活動の様子



▲モニュメントの基礎制作は危険を考慮し貸しガレージで行った